

牧羊ひろば



天授ヶ岡教会 教会学校

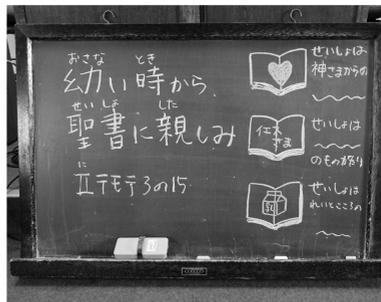
●教会学校礼拝再開

教会学校の礼拝活動は二〇一四年度から開店休業状態となりました。その時間帯に、教会で結成したバンドの練習を行い、子どもが来れば対応しました。二〇一六年4月、現在の牧師が派遣されました。教会学校の時間帯に、牧師の子どもたち以外の子どもへの参加はありませんでした。しかし教会学校教師と10時半からの礼拝出席のため早めに来られていた数名の信徒がありましたので、ギターやベース、ドラムなどの楽器を使って、共に賛美していました。6月の第一日曜日に、天授ヶ岡幼稚園に通っている二組の母子が出席されました。一組はお母さんがクリスチャンで、4月から天授ヶ岡教会の礼拝に客員として、ご家族で出席して下さっている方でした。もう一組は教会が初めて。それが教会学校礼拝の本格的な再開の契機となりました。

●教会学校の礼拝

幼稚園から小学生高学年までの子どもたちとお母さんを中心に、早めに来られた信徒の方まで、幅広い年齢層が対象です。教会学校の奉仕者は、牧師と教会学校教師として兄弟が1人、お手伝いとして青年が1人です。

賛美は、教区のティーンズ・バイブル・キャンプの歌集を使いました。教会が初めてのお母さんは、若い頃にバンドをしていたということで、早速演奏に加わってしまいました。今も喜んで演奏に加わって歌います。天授ヶ岡幼稚園では一つの賛美を覚えるまで歌います。わ



小さな黒板を使って聖書の言葉を覚える。

かりやすい歌詞を繰り返し聞いて歌って覚えます。字を追って歌うことに慣れていません。ですから園児にとって、ティーンズ・バイブル・キャンプの歌集は結構難易度が高い。新聖歌の子どもの曲の方が早く覚えたりします。そういうこともあって、今は絵本や紙芝居のようにストーリー性のある曲、幼稚園で覚えた賛美歌、昔からの子ども賛美歌も歌うようにしています。それもベースやドラムを入れて賛美します。教会学校に出席する園児は、知っている曲や覚えた曲は力一杯歌いますし、覚えていない曲や知らない曲であれば、走ったり踊ったりして曲に合わせてくれます。



クリスマスでの教会学校賛美。前に出るのが恥ずかしい子は写っていない所で歌っています。

お話しは、聖書絵本シリーズを読み聞かせ、そのお話しにちなんだ聖書の言葉に触れるようにしました。1年ほどでそのシリーズが終わり、次に聖書紙芝居シリーズを読み聞かせしました。絵本は昔の聖書紙芝居を芳香させる密度の濃い手書きでしたが、紙芝居はグラフィカルでシンプルな今時の絵柄。シンプルすぎてその一枚からアクションが伝わってこないのが惜しいところ。そこは補足しながら読み聞かせです。牧師が子どもだった頃、読み聞かせてもらった数々の紙芝居を復刻してほしい！と思いました。これも1年ほどでシリーズが終わりまし



紙芝居の読み聞かせ。

た。そして二〇一八年度から、教会学校教師の兄弟には牧羊者に従って、牧師は小さな子どもにも向けた聖書教理を、隔週でお話するようにしました。聖書教理は牧師のオリジナルです。もちろん様々な教理問答集も参考にしました。しかしそれを7分から10分くらいで、小さな子の記憶にとどめるにはどうするか？ 一緒に聞いているお母さんや他の信徒の方々の記憶にもとどめるにはどうするか？ 工夫とやりがいのある取り組みです。最大の目標は聖書の言葉が残ること。たとえば「神様について」であれば、「神は愛」「神は霊」「神は唯一」「神は真実」などです。小さな黒板に聖書の言葉と絵を描いてお話しします。みんなで声を合わせて何度も読みます。二週間後におさらいします。子どもは繰り返しが大好き。何度も読み返しているとますます大きな声で読むようになります。自分が出した声を自分の耳に入れる。そうやって覚えるようにしています。

また二〇一八年5月に「教会学校について」という、小さな子にもわかってもらうことを目的とした教会学校の内容と礼拝の約束事を作成しました。子どもも大人もみんなで読み合わせました。「お話しを聞く」を強調し

ました。教会学校の先生がお話ししても、小さな子がお話ししても、その人がお話しするなら、みんなでその人のお話に耳を傾ける。それがお互いを大切にすることだと。それ以降、子どもたちがざわつくことがあっても、その都度その約束事に立ち帰るようにし、礼拝に集中できるようにしました。



カフェスタイル礼拝では、小さな子どもたちも最初から最後まで礼拝に出席しています。普段の礼拝はメッセージ後の賛美から出席。

●教会学校のその他の活動

かつて、教会学校の礼拝出席数が減少していく中でも、夏のバーベキューやクリスマス会などの特別集会は行われていて、天授ヶ岡幼稚園の卒園児も含むたくさんの子どもが来ていました。二〇一二年からはクリスマス会の

みとなりました。二〇一六年以降特別集会は行っていない。二〇一八年には教会学校主催の秋の遠足で動物園に出かけました。教会に唯一ある従来型の集まりである「婦人会」が、二〇一八年度初めに食事会をしました。その時、「みんなでどこかに行きたいね」という話になり、そこでいくつか候補があったので、教会学校で主催できそうな「動物園」を企画としていただきました。これからも教会で「こんなことしたいね」というアイデアがあれば、教会学校も積極的に関わっていきたいと願っています。いずれも教会全体に呼びかけ、どなたでも参加大歓迎としています。教会学校の礼拝もそうですが、子どもたちを中心にしてはいますが、どなたでも参加大歓迎のスタンスです。またイースター礼拝やクリスマス礼拝では、教会学校による賛美も行っています。

●天授ヶ岡幼稚園とのかわりと今後

天授ヶ岡教会は天授ヶ岡幼稚園と共に歩んできました。現在、教会の信徒夫婦が、ドロシー・エレン・ホーア先生や福田八重先生といった草創期の先生のスピリットを引き継いで働きを進めておられます。毎日幼稚園か

ら子どもたちの元気な賛美とお祈りが聞こえてきます。牧師は幼稚園の理事に加わり、始園式や卒園式では式辞を述べ、花の日礼拝や収穫感謝祭は教会堂で行われ、運動会では牧師が開会祈祷、クリスマス祝賀会では園児や卒園児、ご家族の前で牧師がメッセージをします。日頃は幼稚園の子どもたちが帰った後、有志の方々がサッカー教室や空手教室、体操教室やゴスペル教室、英会話やピアノ教室が主催され、年配の方々向けの脳活教室や唱歌教室まで行われています。まさに地域のあらゆる世代に開かれた幼稚園です。地域との関わりと伝道のためには様々な教会で様々な取り組みがなされていますが、ここでは幼稚園がそれに似たあらゆる働きの窓口になっています。なんと大きな教会学校だろうと思います。また、時代の流れで、認定こども園への移行が行われようとしています。子どもとその家族のニーズの広がりへ対応が迫られています。老朽化と新体制移行に伴い、新園舎の建設も必要となっています。草創期の先生方のスピリットを継承しつつ、次の時代にふさわしい幼児教育のあり方を模索しておられます。

そんな中で教会は何ができるか？ 考えさせられ祈ら

されています。あらゆる働きを受け皿となっている幼稚園と共に、次の時代を見据えた教会の働きにどんな可能性があるだろうか？ 一つは幼稚園に子どもを送迎しているご家族の憩いの場、交わりの場とならないだろうか？ ということです。教会堂も幼稚園園舎と共に老朽化しています。教会が誕生して70年を迎えました。これを機に、神様のこれまでの導きを感謝しつつ、これからの導きを期待し、次の時代にふさわしい教会の姿を、教会員一同共有し、形にしていきたいと願っています。

(内田 純)



教会学校主催の遠足（動物園）。



幼稚園の花の日礼拝。



幼稚園の収穫感謝祭。